

公明党鎌ケ谷市議会ニュース

発行：鎌ケ谷市議会公明党/令和5年11月

編集責任者/公明党幹事長 小易和彦

2023 秋冬号

市民生活を守るR6予算要望書を提出!!



芝田市長に予算要望書を提出（令和5年10月8日）

長期に渡るコロナ禍を乗り越え、更なる市民生活の安全・安心の鎌ケ谷市を目指し、防災・減災対策、福祉・教育・子育て支援の充実、デジタル化・脱炭素化の推進、都市基盤整備など、12分野380項目を「令和6年度鎌ケ谷市予算編成に関する要望書」に纏め、芝田市長に提出しました。これまで、公明党に頂いた皆様のお声から実現した事業について、その一部をご紹介します。

市民生活を守る事業を推進・実現！



带状疱疹ワクチン接種費用を一部助成！

対象者：満50歳以上の鎌ケ谷市民の方

助成内容：生ワクチン/1回まで（費用の1/2の上限 4,000円）

不活化ワクチン2回まで（接種1回の上限 5,000円）

実施期間：令和4年11月1日から



医療費助成を 高校生までに！

高校3年生までの子どもが医療機関に入院または通院した場合、医療保険が適用になった医療費の全部、または一部を助成。

（令和5年8月から助成対象を拡大）



自転車用ヘルメット 一部助成！

令和4年12月23日以降に購入された新品に対し、1人2千円を助成。SG基準等の認定マークが必要。

（令和6年3月29日まで）



東部児童センター令和6年3月開館！

東部地区に建設中の児童センターの名称が、東部児童センターに決定！登って遊べる木製の大型遊具やバスケットボールなどができる遊戯室、保育室や図書室、集会室などを設置。



鎌ヶ谷市議会公明党の市政に関する一般質問から

小易 和彦 議員

令和6年度予算編成方針について

芝田市長に令和6年度予算編成に向けた決意を伺いました。

市長からは『本市を取り巻く状況に大きな転換期が訪れていると思う。それは、北千葉道路の整備事業から鎌ヶ谷市をさらなる発展につなげる高いポテンシャルを感じることや北海道日本ハムファイターズの球団や新たな本拠地である北広島市を訪問し、それぞれ今後の連携について意見交換を行ってきたためである。こうした状況から、子育て支援や安全安心の取組などの市民サービスの向上に努めるとともに、市のさらなる魅力アップや地域活性化の取組に重点化を図りつつ、少子高齢化による扶助費の増や物価のさらなる高騰などが見込まれるため、引き続き行財政改革に取り組み、健全な財政運営を担保しながら、予算編成を行っていく』との答弁がありました。

公明党は「誰もが希望を持ち、安心して暮らすことのできるまちづくり」を掲げ、予算編成に関する要望書を提出していますが、今後とも市民福祉の向上に全力で取り組むことを求めました。



伊福 幸一 議員

保育現場の安全対策について

昨年、一昨年と続いた、送迎バスに置き去りの園児が、熱中症で亡くなられた大変に痛ましい事案を受けて、令和4年12月の一般質問に引き続き、置き去り防止安全装置の早期整備を重ねて要望しました。市からは「市内において送迎バスを運行している保育施設などは、私立幼稚園が8園、民間保育所等が2園、公立のこども発達センター1園の計11施設であり、その内、私立幼稚園1園を除いた10施設で既に安全装置の設置が完了しています。未設置の私立幼稚園は、今年度中に設置を完了する予定と伺っています」との答弁がありました。

北中沢3丁目付近の変則十字路及び通称あいさつ通りの安全対策について

あいさつ通りから市道28号線に出る、鋭角に交差している危険個所について、市民の方から安全対策を求めるお声を頂き、市に安全対策を強く要望しました。市からは「道路照明灯やカーブミラーの設置が考えられます。今後、周辺住宅への影響や設置するための用地確保など、現地を調査し設置の可否も含めて検討していく」との答弁がありました。



矢崎 悟 議員

重症心身障害児（者）の支援について

公明党千葉県本部が主催する政策要望懇談会に、千葉県重症心身障害児（者）を守る会の方々が参加され、お話を伺う機会を頂きました。家族の高齢化から介護に限界を迎える家庭も増えているなどの現状を伺い、レスパイトケアや医療的ケアに対応する施設の整備など、支援の充実を市に要望しました。

また災害時等の長期停電の発生に備え、人工呼吸器用非常用発電機等購入費用の助成等の導入を強く求め、命を繋ぐ重要な設備であり検討するとの答弁がありました。

公園における環境整備と防犯対策について

公園やふれあいの森等のナラ枯れ被害対策をはじめ、未就学児の利用の多い丸山児童公園や児童が通学路としても利用する手通公園の防犯対策の充実を市に要望しました。また現在整備中の鎌ヶ谷一丁目ふれあいの森に市民からご要望を頂く健康遊具の設置について質問し、遠路脇中央付近に広場を設け、背伸ばしベンチや垂直ラダーの設置を計画しているとの答弁がありました。



富田 信恵 議員

本市におけるデジタル化の推進について

近年のデジタル技術の目覚ましい発展とコロナ禍により、私たちの生活は大きく変化しました。さらに深刻化する少子高齢化社会にむけ、効率的な行政サービスへの変換が求められる中、誰一人取り残さない社会の実現のために、デジタルに不慣れな市民への支援が不可欠であると要望。市の取組みとして、今年度は新たに南部公民館でスマホ教室を行うほか、他の公民館での実施も検討する。また市役所 1 階に設けたマイナポイント設定支援ブースには約 2 万人の利用があったことから、今後も継続してマイナンバーカード関連の相談支援を行っていくとの答弁がありました。さらに今後の市の目指す姿について質問し、デジタルの活用により個人のニーズに合ったサービスの提供と多様な幸せが実現できる社会を目指し、市民生活をより良く変革させるデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進していくとの答弁がありました。



鈴木 哲也 議員

視覚障がい者のための「音声コード」の利用促進について

視覚障がいのある方をはじめ、小さい文字が見えづらい高齢者など、文字情報の取得が困難な方は全国で 160 万人との報告があります。

そのような方を対象に、国や地方自治体などから送られる公的な通知文書や広報などの文字情報を二次元コードに変換し、専用のスマートフォンアプリ（無料）を使ってスマートフォンのカメラをかざすと、その内容を音声で聴くことができる音声コード「ユニボイス」の普及を本市でも進めていくよう強く要望しました。

市からは、ユニボイスはスマートフォンがあれば、専用の機器が不要なため、視覚障害のある方の情報伝達手段として定着しつつあります。音声コードを活用することで、障がいがある方の情報取得利用、円滑な意思疎通といった情報アクセシビリティの向上につながることから、本市としても様々な機会を捉えて、その普及に努めるとの答弁がありました。



送迎バスへの置き去り防止安全装置の設置が実現！！

公明党鎌ケ谷市議団は、10月5日、送迎バスへの置き去り防止安全装置が設置された鎌ケ谷市のこども発達センターを視察しました。

令和3年7月に福岡県、令和4年9月に静岡県で送迎バスに置き去りにされた園児が、熱中症で亡くなるという大変痛ましい事案が発生し、国ではこれに対して、こども家庭庁が認定した置き去り防止安全装置の設置を義務付ける事としました。



置き去り防止安全装置が設置された送迎バスを視察
(令和5年10月5日 こども発達センターにて)

置き去り防止安全装置の設置については、公明党の山口代表が参院代表質問を行うなど、取組みをリードし、県議会や市議会における議会質問を通じて、今回の実現に至りました。

置き去り防止安全装置は、乗車時確認式と自動検知式の2種類があり、どちらか一方の設置が義務付けられていますが、こども発達センターの送迎バスに設置された装置には、両方の機能が備わっており、より確かなヒューマンエラーの補完が期待されます。今後も国と地方のネットワークの力をフルに発揮し、市民の命と暮らしを守る施策を推進してまいります。

令和4年度 一般会計歳入歳出決算の認定について

一 決算に対する公明党の意見一

令和4年度、鎌ケ谷市では、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、原油価格・物価高騰対策として、子育て世帯応援特別給付金やキャッシュレス決済ポイント還元事業などを実施するとともに「子育てしやすいまちづくり」や「災害に強い安全、安心のまちづくり」など、

●主な財政指標

| 区分 | 令和4年度 | 令和3年度 | 令和2年度 |
|----------|------------|------------|------------|
| 実質収支比率 | 11.8% | 13.2% | 8.4% |
| 経常収支比率 | 95.4% | 92.4% | 97.3% |
| 積立金現在高 | 5,409,860 | 4,837,537 | 4,696,910 |
| うち財政調整基金 | 2,603,727 | 1,864,443 | 1,747,269 |
| 地方債現在高 | 36,588,585 | 38,146,598 | 37,637,580 |
| 健全化判断比率 | | | |
| 実質公債費比率 | 4.9% | 4.7% | 4.3% |
| 将来負担比率 | 32.2% | 36.8% | 32.1% |

経常収支比率は、95.4%ですが、減災基金繰入金を加味した経常収支比率は、91.7%となり、財政健全化計画に掲げる目標の95%未満を2年連続で達成しています。各種基金残高は、約54億円を確保し、このうち財政調整基金残高は、前年度と比較して約7億4千万円増の約26億円で、財政健全化計画で目標とする19億円を3年ぶりに達成することができました。

このように令和4年度決算は、財政健全化計画に掲げる目標をすべて達成することができ、今後のまちづくりに繋がる決算になったものと考えます。

一方で、原油価格・物価の更なる高騰の可能性など予断を許さない状況が見込まれること、また少子高齢化の進展による扶助費や医療・介護特別会計への繰出金の増が見込まれる状況であることから、持続可能な行財政運営を堅持しつつ、原油価格・物価高騰対策の充実強化や命と暮らしを守る防災・減災対策、デジタル化・脱炭素化の推進、市民サービスの向上、まちの発展に向けた施策など、メリハリのある事業展開を決算審査特別委員会で要望しました。

●一般会計収支の状況

(単位:千円)

| 区分 | 年度 | 令和4年度 | 令和3年度 | 令和2年度 |
|-------------|----|------------|------------|------------|
| 歳入総額 | A | 43,539,167 | 45,232,523 | 49,186,461 |
| 歳出総額 | B | 40,797,254 | 42,159,413 | 47,281,170 |
| 差引額(A-B) | C | 2,741,913 | 3,073,110 | 1,905,291 |
| 翌年度へ繰越すべき財源 | D | 243,450 | 229,038 | 206,927 |
| 実質収支(C-D) | | 2,498,463 | 2,844,072 | 1,698,364 |
| 単年度収支 | | ▲ 345,609 | 1,145,708 | 667,371 |

※単年度収支は、当該年度の決算による実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額

5つの政策に基づく事業を展開していきましました。

令和4年度の決算状況は、約25億円の実質収支を確保するとともに、財政の健全化を表す、健全化判断比率の実質公債費比率、将来負担比率は、国の定める早期健全化基準未満を堅持しています。

